

ウィリアム・メレル・ヴォーリズについての一考察

～関西学院大学の場合～

塩 田 昌 弘

A Study on the Architect William Merrell Vories
～In the Case of Kwansei Gakuin University～

SHIOTA Masahiro

[目次]

序章

I. ヴォーリズの生涯

II. ヴォーリズの関西学院大学

終章

図版

注と参考文献

序章

西宮の上ヶ原の地に、関西学院大学が建っている。関西学院大学は、ミッション系の大学として、また、紺碧の空のもと、広大な緑の芝生に映える白亜の校舎、時計台、図書館などのキャンパスの美しい景観と共に、全国的に知名度の高い大学である。

しかし、このキャンパスの設計者であるW.M.ヴォーリズ（1880～1964）についてはあまり知られていない。関西学院大学のキャンパスデザインを設計したW.M.ヴォーリズの足跡をたどりながら、その美の設計は、いかにして創造されたのか、関西学院大学の造形美について論考したい。

突然、天からの光が彼の周りを照らした。サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起きて町に入れ。そうす

れば、あなたのなすべきことが知らされる。」同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。(使徒言行録9 3-8)

I. ヴォーリスの生涯

ヴォーリスの生涯は、聖者、伝道者のパウロ（Paul、紀元5～10年頃、小アジアのタルソスでユダヤ人を両親として生まれた。ユダヤ名をサウロと叫んだ。67年か68年頃、殉教死した。）を彷彿とさせる。

ヴォーリスは、日本名を一柳米来留と言ったが、その自らの人生を象徴するかの様な文章を残している。¹⁾

芥子種²⁾

ある人が一粒の種をまいた
それは小さなものであったが
彼の主であり王であるお方の畑にまいた
芥子種の一粒であった
それは生長繁茂して
仕事に疲れた彼の頭を
その陰に憩わせるほどになり
その枝のあいだには
たぐいまれなかわいい小鳥が巣を作って
讃美の歌を歌った
それで 小さな種をまいたその人は
そのつまらぬ業のはずかしさを忘れた

また ある人がその生命をささげた
それは小さなものであったが
彼はそのもてるすべてを
彼の王である方にささげたのであった
主は彼を暗黒の住む地へつかわした
そこには、めしいや足なえが変な偶像に
ひざまづいていた
それは寂しい土地であったが

彼は天を見あげつつ
望みなき人々に愛の音ずれをもたらした
するとむなしくやみにさまよう多くの人々は
霊の生命へと生れかわった

そして 乏しき世界に注ぎつくした彼の生命は
芥子種のように繁殖して行った

³⁾
一柳米来留

上記の文章から、イエスの愛の教えが米来留に満ち溢れていた事がわかる。彼は、聖書の「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。〈中略〉野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。〈中略〉何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」⁴⁾を深く信じて行動した人であった。

W.M.ヴォーリズは、どのような生涯を送った人であったのか。メレルの著作である『失敗者の自叙伝』の年譜を基にして、メレルのこの世での活躍の跡を、その伝導の姿と建築への情熱を織り交ぜながら述べてみようと思う。

ヴォーリズ年譜（『失敗者の自叙伝』一柳米来留著 William Merrel Vories Hitotsuyanagiより抜粋、⁵⁾加筆した。）文中の建築物〔 〕内の数字は図版番号で図版頁を参照の事。

1880年（明治13年）0才

10月28日、米国カンザス州レブンワースに、父ジョン・ヴォーリズ、母ジュリア・ヴォーリズの長男として生まれる。父方の祖父ヘンリーモンフォート・ヴォーリズは、ミズリー州の最高法廷裁判官、母方の祖父はその町の教会の長老であった。

1882年（明治15年）2才

このころから両親に伴われて教会の礼拝に出席し、後日幼児洗礼を受ける。

1886年（明治19年）6才

生来病弱であったため、一家は、メレルの健康上フラグスタッフへ移住する。

1896年（明治29年）16才

コロラド州デンバー市へ転居する。

1900年（明治33年）20才

イーストデンバー高校を卒業。コロラド大学に入学。大学在学中、YMCA夏期キャンプのリーダーとなり、YMCAの働きに関心を持つ。

1902年（明治35年）22才

カナダのトロント市で開かれた学生宣教義勇軍の大会に出席。テラー女史から中国伝道の講演を聴き、外国伝道への献身を決意する。⁶⁾

1904年（明治37年）24才

コロラド大学卒業。宣教のため、ニューヨークの国際YMCA本部に海外での就職先を依頼する。

1905年（明治38年）25才

東京YMCA同盟からの連絡により、当時、英語の外人教師を求めている滋賀県立商業学校教師として赴任するため、二月二日午後、初めて近江八幡に来たり、魚屋町に居住する。⁷⁾

1907年（明治40年）27才

二月、八幡キリスト教青年会館を建設。伝道の根拠地とした矢先、三月二十五日、その伝道

の故をもって教師解職となる。

1908年（明治41年） 28才

京都三条、キリスト教青年会館の一室で建築設計監督開業。これが機縁で後に1920年（大正9）ヴォーリズ建築事務所を開設、日本各地はもとより、戦前には朝鮮、満州、中国に進展、昭和19年まで継続する。大阪の大同生命ビル⁸⁾をはじめ、関西学院、神戸女学院、大阪、京都の大丸百貨店、東京の国際基督教大学¹¹⁾などはその設計になり、他にも各地の教会、学校、病院、銀行、住宅など、その数は千有余にも及んでいる。

1910年（明治43年） 30才

ヴォーリズ合名会社設立。

1912年（明治45年） 32才

キリスト教伝道、家庭雑誌「湖畔の声」を創刊する。

1916年（大正5年） 36才

明治学院礼拝堂（東京都港区白金台）。

1918年（大正7年） 38才

近江療養院を開設。また近江キリスト教慈善強化財団を設立する。

1919年（大正8年） 39才

子爵一柳末徳の三女、満喜子¹³⁾と結婚（明治学院礼拝堂、6月3日）。

1920年（大正9年） 40才

ヴォーリズ合名会社を解散し、近江セールズ株式会社を設立、メンソレータムの販売を開始する。

1921年（大正10年） 41才

八幡郵便局（旧八幡郵便局 現在はギャラリーとして使用されている）。

1922年（大正11年） 42才

一柳満喜子により清友園幼稚園を開設する。

大阪教会（大阪市西区）。

大丸百貨店心齋橋店（大阪府中央区心齋橋筋）大正11年～昭和8年。〔1〕〔2〕〔3〕〔4〕

1923年（大正12年）43才

百三十三銀行（今津ヴォーリス資料館 今津町大字今津175番地）。

1924年（大正13年）44才

『吾家の設計』を出版する。

1925年（大正14年）45才

大同生命ビル。主婦の友社（東京都千代田区神田駿河台）。

1926年（大正15年）46才

東華菜館（矢尾政）（京都市下京区）。〔5〕〔6〕

活水学院（長崎市東山手町）。

1929年（昭和4年）49才 ※大学令による関西学院大学設立の件、認可されたのは、1932年（昭和7年）3月7日であった。

関西学院（西宮市上ヶ原一番町）。〔7〕〔8〕〔9〕〔10〕〔11〕〔12〕〔13〕〔14〕〔15〕〔16〕〔17〕〔18〕〔19〕〔20〕〔21〕〔22〕

神戸ユニオン教会（神戸市中央区生田町）フロインドリーブ。〔23〕〔24〕

居留地38番館（神戸市中央区明石町）神戸大丸南館第1別館。

1930年（昭和5年）50才

母校コロラド大学よりLLD（名誉法学博士）を受ける。また同志社大学社友に推薦される。

1931年（昭和6年）51才

ヴォーリス邸（滋賀県指定文化財 ヴォーリス記念館 近江八幡市慈恩寺町）。〔25〕〔26〕〔27〕〔28〕

1932年（昭和7年）52才

現在の近江八幡市慈恩寺町元1-1に居を構える。

大丸ヴィラ（下村邸 京都市中京区烏丸丸太町）。〔29〕

同志社大学アーモスト館（国の重要文化財 京都市今出川）。

1933年（昭和8年）53才

東洋英和女学院。

神戸女学院（西宮市岡田山）。

1934年（昭和9年）54才

2月に近江ミッションを近江兄弟社と改称。

1937年（昭和12年）57才

滋賀県犬上郡豊郷町立豊郷小学校校舎。

1941年（昭和16年）61才

日本国籍を取得し、一柳米来留（ひとつやなぎ めれる）と改名する。

1951年（昭和26年）71才

「失敗者の自叙伝」起筆、昭和32年に発病するまで「湖畔の声」誌上に連載する。

1954年（昭和29年）74才

社会公共事業に対する功績により藍綬褒賞を受ける。

1957年（昭和32年）77才

八月、軽井沢で蜘蛛膜下出血のため倒れ、三ヶ月後近江八幡の自宅に帰り、療養生活に入る。

1958年（昭和33年）78才

近江八幡市名誉市民第一号に推される。

1960年（昭和35年）80才

日米修好通商100年記念に際し、功労者として顕彰を受ける。

1961年（昭和36年）81才

建築業界における功績により黄綬褒賞を受ける。

1964年（昭和39年）84才

5月7日、83年6ヶ月の地上生涯を終え召天。正五位に叙せられ、勲三等瑞宝章を受ける。

5月16日、近江八幡市民葬と近江兄弟社葬との合同葬を行い、遺骨は恒春園に葬る。

ヴォーリズの堂々たる人生、深い信仰の生涯は終えたが、ヴォーリズの残した建築は、現在、我々に精神の安定と宗教的な充足を与えてくれる。特に、ヴォーリズのスパニッシ

ユ・ミッション・スタイルの建築物は現在でも異彩を放ち、歴史の重圧に耐えている。特に、関西学院大学のキャンパスに見られるスパニッシュ・ミッション・スクールの景観美¹⁴⁾は、ヴォーリズの深い宗教的精神が輝いている構築物といえよう。まさに、ヴォーリズの祈りの形象化に他ならない。¹⁵⁾

関西学院大学の現在の景観の美は、ヴォーリズの清楚で深い心の表出であり、且つ、神の大きな計らいから来るものであろう。そして、その輝きは未来へと続いてゆくものであろう。¹⁶⁾

いつくしみ深き 友なるイエスは、
罪とが憂いを とり去りたもう。
こころの嘆きを 包まず述べて、
などかは下さぬ、負える重荷を。

いつくしみ深き 友なるイエスは、
かわらぬ愛もて 導きたもう。
世の友われらを 棄て去るときも、
祈りにこたえて 労りたまわん¹⁷⁾

Ⅱ. ヴォーリズの関西学院大学

関西学院大学は、現在、兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155に存在する。しかし、1889年(明治22年)の創立当初は、神戸市とは道を一本挟んで隣り合う原田村にあった。¹⁸⁾4月に菟原郡原田村字王子の一万坪を購入し、校舎を建て、9月に関西学院を設立した。その当時の事情は、次の資料に記るされている。

関西学院は1889(明治22)年9月6日、兵庫県知事宛に、設立者中村平三郎名義で「私立関西学院設立御願」を提出、9月28日、認可を受けて兵庫県摂津国菟原郡都賀野村内原田村に創立され、10月11日授業を開始した。¹⁹⁾

上記の事で、後日、関西学院大学が原田の森に在ったと呼称される由縁である。その後、さらに校内の敷地を広げ、校舎の増築化をめざした。

ここはもともと約7000坪の「官林」であったが、その前年に西灘村に払い下げられたもので、売却されるのは建御名方尊神社(通称原田神社、現王子神社)の境内区域を除いた部分5023坪であった。学院は関係者および在日本南メソヂスト教会宣教師社団の同意、さらにアメリ

カ本国の南メソヂスト監督教会の指示を得て、1906（明治39）年その土地を購入した。〈中略〉ちなみに、「原田の森」という呼称は、この建御名方尊神社の神域の松林を意味している。この神社境内およびその導入路は、結局学院が所有することはなかつた。²⁰⁾

また、関西学院は、キリスト教主義に基づく教育方針をとるため、チャペル（礼拝堂）を必要とした。その結果、ブランチ・メモリアル・チャペルが建設された。その建設までの経緯は次の様に記るされている。

ウェンライトはその訪米中に、当時、南メソヂスト監督教会外国伝道局長であったW・R・ランバスとともに学院創立期に土地購入に際しての資金を提供したトマス・ブランチの息子ジョン・P・ブランチ（John Patteson Branch, 1830-1915）を訪問して、新チャペル建設の必要性を訴え、資金協力の了承を得た。その資金をもとに、学院創立期の校舎建築の最後となるチャペルが建設された。²¹⁾

このチャペルを、ブランチ・メモリアル・チャペルと名付けられたのはこの謂である。また、建築については、次の様に記るされている。

煉瓦造平屋建て、大小二室を持ち、隔戸を開放すれば500人を収容することができるこの建物は、1904（明治37）年2月に着工され、10月23日、C. B. ギャロウェイ監督（Charles B. Galloway）司式により献堂式が行われた。ウェンライトによる1904年の日本年会への報告によれば、「建物は、堅固な構造を持ち、資金の許す限りにおいて様式的な美しさも配慮されている。屋根と床にはアメリカ産松材を、壁面には日本産の花崗岩および煉瓦を、煉瓦の固定にはイギリスから輸入されたセメントが用いられた」とあり、イギリス人M・ウィグノー（M. Wignall）の設計による初期英国風ゴシック・スタイルのデザインは、それまでの木造建物群の中にあつて異彩を放つものであつた。²²⁾

そうして、このブランチ・メモリアル・チャペルは原田の森に出現し、以後、関西学院の象徴的建造物として注目を浴びる事となった。

近代日本のキリスト教界の課題に、キリスト教主義の大学の設立があつた。関西学院もこの課題に無縁でなかつた。大学昇格運動に積極的に取りくんだのである。この件に関して、下記の記録を見る事ができる。

大学開設に当たって甲東村上ヶ原に設けられるキャンパスおよび建物の構想は、公式的には1927（昭和2）年5月27日の理事会で選出された建築委員会（12名）により検討が行われる

ことになり、同年9月22日に建築計画の概要が同委員会から理事会に報告されている。〈中略〉このような経過を受けて1928（昭和3）年2月18日の理事会において建築に関する正式な契約が交わされ、新校地の設計監督は、既に明治期末より原田校地において学院校舎の設計を担当してきたW.M. ヴォーリズの主宰するヴォーリズ建築事務所²³⁾に、また建築施工は竹中工務店に委ねられることとなった。

上記の記録のとおり、上ヶ原キャンパスは1929年（昭和4年）2月に完成し、3月31日に移転を完了、4月1日より事務を開始した。また、新キャンパスの落成祝賀式は、創立40周年記念式を兼ねて、同年の9月28日の学院創立記念日に挙行されるにいたった。

上ヶ原キャンパスの特徴は何か。ヴォーリズによる上ヶ原キャンパスのデザインの特色は、一般的に次の様に指摘されている。²⁴⁾

- 1) 立地の選択の周到さ
 - 2) 中央に配置された広大な芝生を貫通する軸線を基本とする全体設計
 - 3) その軸線を中心とする校舎配置
 - 4) そこに点在する校舎デザインのスパニッシュ・ミッション・スタイルによる統一
 - 5) 神戸原田キャンパスの伝統を引き継ぎ、校舎、学生寮、教員住宅などを意図的に配置したキャンパス・コミュニティの形成
 - 6) それらを総合して醸し出される聖書的メッセージ性に富むキャンパスイメージ
- 〔「ヴォーリズの祈りのかたち」展カタログ（関西学院大学発行2004年）p. 25 山形政昭執筆
「一九二六年七月、関西学院西宮移転工事設計受注」を参考にし、掲載した。〕

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（William Merrell Vories, 1880-1964）と関西学院との出会いは、1902年（明治35年）のカナダのトロント市のマッセイ・ホールで開催された海外伝道学生奉仕団（Student Volunteer Movement）に参加した事からはじまる。その会場で、偶然であるが、C. J. L. ベーツ（Cornelius John Lighthall Bates, 1877-1963）と共に、ハワード・テラーという中国伝道に献身的な努力を続けている婦人宣教師の特別講演を聞いた事であった。

この講演を聞いて、二人は共に啓示を受けた。C. J. L. ベーツはアジアへの伝道の決意を固め、後年、関西学院の第4代院長となり、また、W.M. ヴォーリズは来日し、関西学院大学のキャンパス・デザインを創成する事になるのである。偶然という事が宗教的体験には無いとすれば、この時・空間の流れの中に、神の大きな計画があったと考えられよう。

関西学院大学の正門から時計台・図書館を望めば、その背景に青い甲山とそれに連なる山なみが美しく見える。ヴォーリズのこの様なデザインの発想には「詩編」121編の聖句

が連想される。²⁵⁾

都に上る歌。

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。
わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る。
天地を造られた主のもとから。

主がすべての災いを遠ざけて
あなたを見守りあなたの魂を見守ってくださるように。
あなたの出で立つのも帰るのも
主が見守ってくださるように。
今も、そしてとこしえに。

(旧約聖書 詩編121)

新校舎の様式はスパニッシュ・ミッション・スタイルと呼ばれるデザインである。関西学院大学のキリスト教伝道の精神を活かした教育のあり方を表現するのに、最もこの様式のデザインがふさわしかったのであろう。

このデザインは本来は19世紀初頭にスペインのフランシスコ派が宣教活動の拠点としてカリフォルニアの太平洋沿岸の各地に建てたミッション（修道院）のスタイルに起源を持つ建築である。詳細に見れば、カリフォルニア地方の建築風土を反映したスパニッシュ・コロニアル・スタイルとスペインのフランシスコ派の宣教師らによるカリフォルニア伝道²⁶⁾によって生まれた教会建築様式の融合によって生成されたデザインといえることができる。

ヴォーリズは、また、天文ファンでもあった。天文同好会の会員で、雑誌『天界』59号²⁷⁾の天文同好会会員名簿に「W.M. Vories 蒲生郡八幡町池田町」と附録されている。関西学院大学の校章が「三日月」である事や、また、大丸百貨店心齋橋店の各階に「星」形のデザインの電飾がある事など、星と縁のある仕事に従事している。ヴォーリズは、キリスト教の伝道と建築の仕事の他、ピアノやオルガンの演奏に優れた才能を発揮した。芸術を愛したヴォーリズは、この地球もまた宇宙の一つの星で、天体の大きな運行の中の一つの役割を演じているにすぎないと考えていたと思われる。その美しい小さな星（地球）に生をうけ、仕事を成し、そして、天界に還っていくと信じていたのだろう。ヴォーリズの場合、天界は天国（Heaven）の意味であった。

百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を²⁸⁾引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

(マルコによる福音書15. 39)

終章

関西学院の創立者、ウォルター・ラッセル・ランバス (Walter Russell Thornton Lambuth, 1854~1921) は、1854年11月10日にこの世に生まれた。今年、ランバスの生誕150周年の年にあたる。また、今年、1929年(昭和4年)に原田校地から上ヶ原キャンパスへ移転75周年の年でもある。この年、関西学院大学は、建築家、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ (William Merrell Vories, 1880~1964) の設計により竣工している。

ヴォーリズの建築史を縦糸に、関西学院の第4代院長で、スクール・モットーである“Mastery for Service”を提唱したC.J.L.ベーツ (Cornelius John Lighthall Bates, 1877~1963)、関西学院の初代院長で“World Citizen”でもあった創立者のW.R.ランバスの熱意と知性と友情を横糸に織りなしながら、ヴォーリズは関西学院大学をはじめ、建築史に輝く多くの作品を残したといえる。特に、ヴォーリズのスパニッシュ・ミッション・スタイル (Spanish mission style) の関西学院大学 (Kwansei Gakuin University) の建物は彼の建築に対する思考がより深く、美しく、表現されている。「建物が人を造る」という言葉があるが、この言葉は、関西学院大学の場合、真理である、と思う他ないのである。

狭き門より入れ、亡びにいたる門は
大きく、その路は広く、之より入る
者多し。

生命にいたる門は狭く、その路は細
く、之を見いだすもの少なし。(マタイⅦ, 13-14)

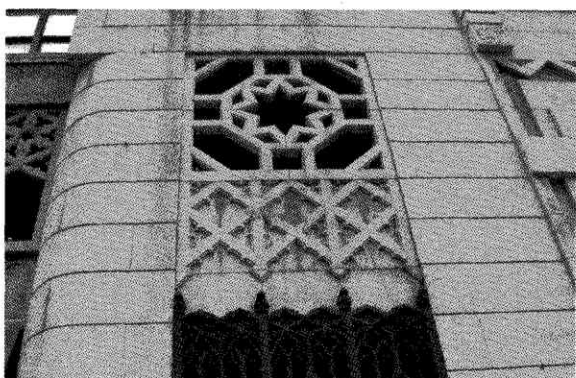
図版 撮影 塩田 昌弘

〈大丸百貨店心齋橋店〉



〔1〕

大丸百貨店心齋橋店。



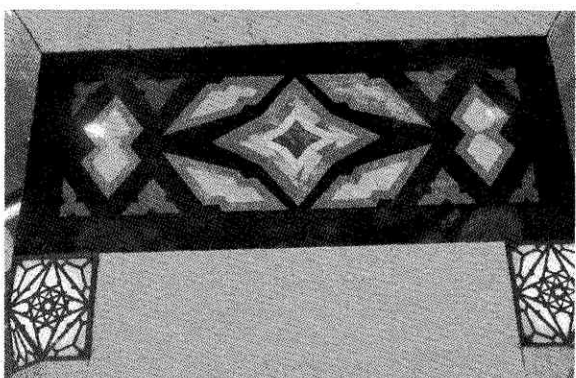
〔2〕

入口の星形のデザイン。



〔3〕

1 F化粧品売場の星形の電飾。



〔4〕

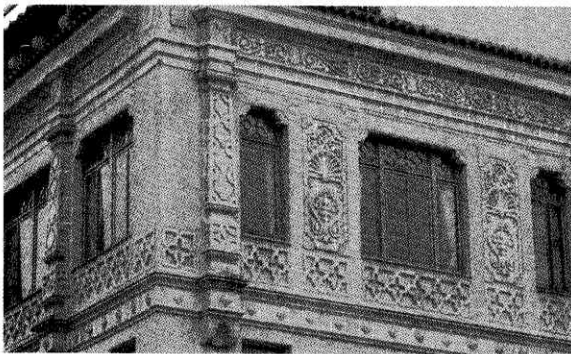
1 F柱のデザイン。

〈東華菜館（矢尾政）〉



〔5〕

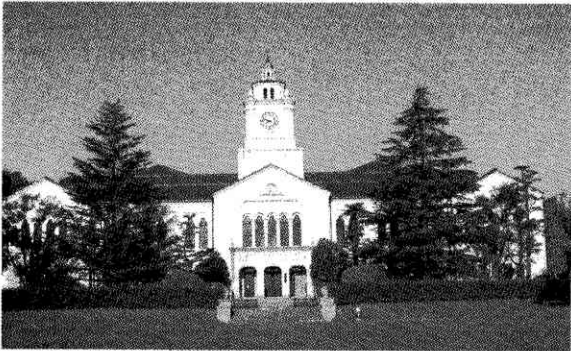
東華菜館。



〔6〕

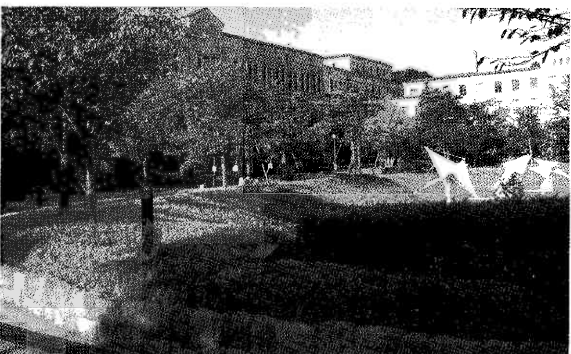
窓枠附近の図柄に東西交流のデザインが見てとれる。

〈関西学院大学〉



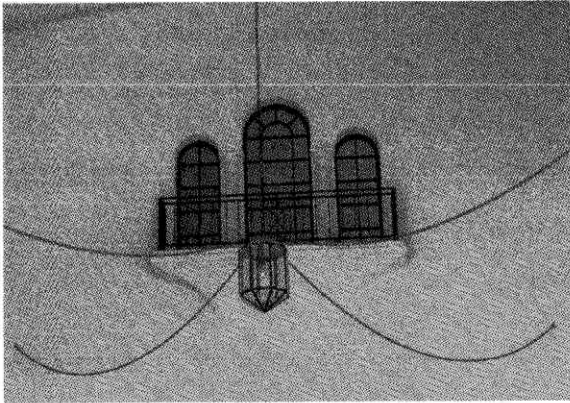
〔7〕

関西学院大学。スパニッシュ・ミッション・スタイルの白亜の校舎が光る。



〔8〕

講義棟A～F号館及び新大学図書館。西宮市都市景観賞を受賞した。



[9]

図書館入口天井部の照明。(株式会社ヤマギワ)



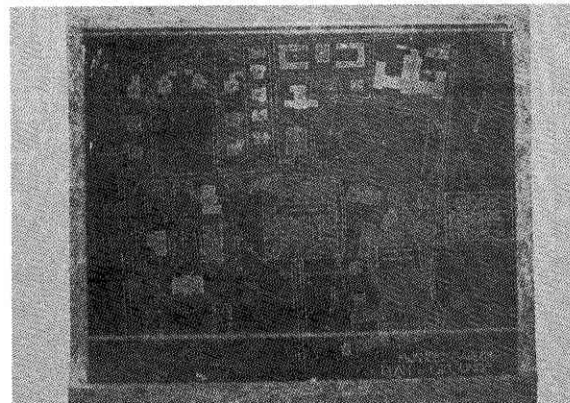
[10]

ヴォーリズ設計旌忠碑。1939年の学院創立50周年に建てられた。



[11]

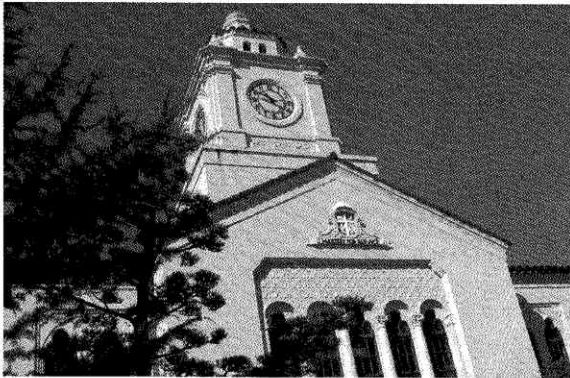
原田の森（旧神戸校地）ブランチ・メモリアル・チャペルの定礎石



[12]

原田校地図面

〈関西学院大学〉



[13]

有名な上ヶ原キャンパスの時計台。図書館正面にMastery for Serviceの文字が見える。



[14]

ヴォーリスの「祈りのかたち」展の展示室。窓から美しい光が室内を照らす。



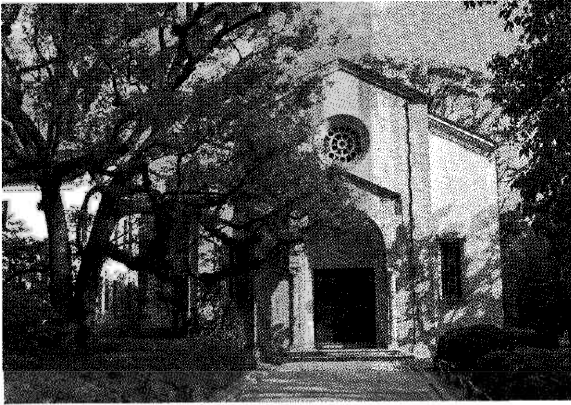
[15]

宣教師館。



[16]

ヴォーリスの「祈りのかたち」展の会場入口のタイトル板。左から、ヴォーリス、ランバス、ベーツ諸先生の写真を展示。



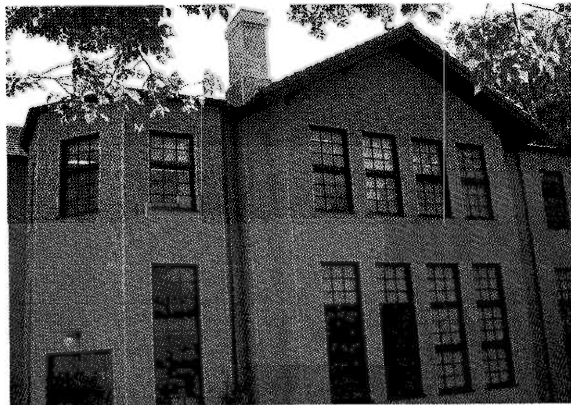
[17]

ランバス記念礼拝堂。創立70周年に学院正門右手に建築された。



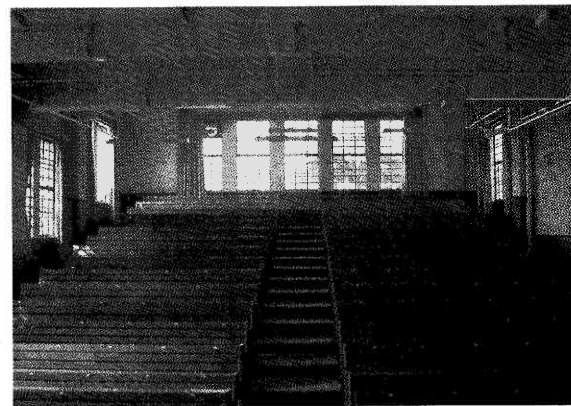
[18]

ランバス記念礼拝堂の内部。パイプオルガンが見える。



[19]

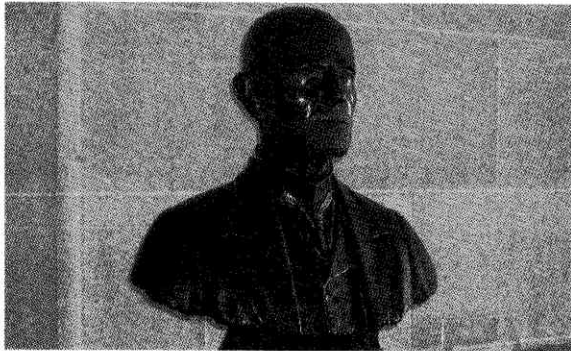
ハミル館。(Hamil Hall)



[20]

チャペルが行われる教室。階段状に長椅子がある。光と風が静かに入る聖なる空間。

〈関西学院大学〉



[21]

関西学院創立者、初代院長。



[22]

「あなたたちは真理を知り真理はあなたたちを自由にする」(「聖句」) 宮本竹逕筆1997年9月。

〈(神戸ユニオン教会) フロイドリーブ〉



[23]

フロイドリーブ (旧神戸ユニオン教会)。
1929年にゴシックスタイルの会堂が誕生した。



[24]

フロイドリーブの内部。教会の内部空間のデザインを残している。

〈ヴォーリス記念館〉



[25]

ヴォーリス記念館。(近江八幡市慈恩寺町)



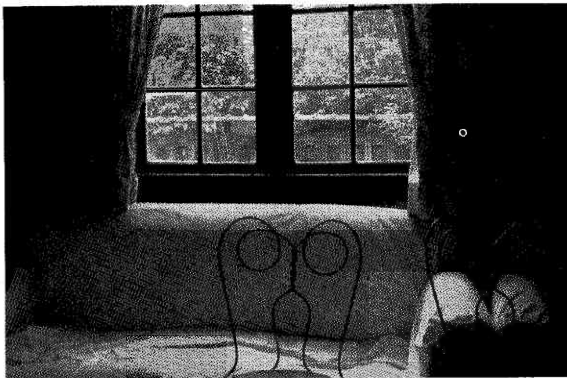
[26]

ヴォーリス夫妻の写真 (学)近江兄弟社学園のシンボル。



[27]

ヴォーリスの書『神の国』1934年。◎印はヴォーリスのサイン。



[28]

ヴォーリス記念館の室内。落ち着いた静かな雰囲気包まれている。

〈大丸ヴィラ〉



〔29〕

大丸ヴィラ（旧下村邸）。1984年、京都市登録有形文化財に登録された。英国のチューダースタイル。

〈今津ヴォーリス資料館〉



〔30〕

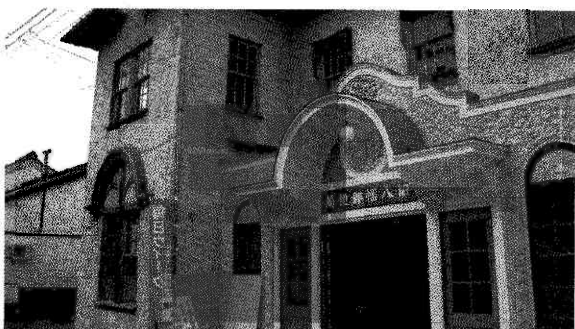
今津ヴォーリス資料館（旧百三十三銀行今津支店）。大正期洋風クラシックスタイル。



〔31〕

今津ヴォーリス資料館内部。木製カウンターが銀行の面影を残す。今津町大字今津175番地。

〈旧八幡郵便局〉



〔32〕

1921年、近江八幡市に建てられた。「ヴォーリス写真展」が開催されていた。（2004年5月22日）



[33]

旧八幡郵便局。

〈関西学院発祥之地〉



[34]

原田校地跡の石垣に刻された石碑「関西学院発祥之地1889-1929」



[35]

ブランチ・メモリアル・チャペル（現神戸市立王子市民ギャラリー）として1904年イギリス人M. ウィグノールにより設計され、その後、1993年神戸市立王子市民ギャラリーとしてオープンした。（設計は一粒社ヴォーリズ建築事務所）



[36]

吉岡美国筆「敬神愛人」の標語が石に刻されている。

吉岡美国（1862-1948）は第二代院長（1892-1916）。

注と参考文献

- 1) 『失敗者の自叙伝』一柳米来留著、p.2～p.3、近江兄弟社・湖声社、1993.12.25

この書物の序文は、メレルの妻、一柳満喜子が1968年5月（米来留昇天の月）に書かれており、その中に「芥子種」は掲載されている。

- 2) 『聖書の植物』H&A・モルデンケ著、奥本裕昭編訳、p.60～p.63、八坂書房、1993.9.30

「カラシは、ふつう一メートル程度にしか伸びませんが、三メートル、五メートルにもなって、茎が人の腕ほどの太さになったものも発見されています。一年生植物なのですが、その茎や枝は、秋になると硬くなって、種子を食べようとやって来る、小鳥の重さに耐えるほどに強くなります。」とカラシ種は小さいが、成長すると小鳥が休むほどたくましくなるのである。

『新約聖書』新共同訳、p.25～p.26、日本聖書協会、1988

イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」（マタイによる福音書13章31節～32節）

- 3) 一柳米来留（ひとつやなぎ めれる）とは、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880-1964年）のことで、1919年（大正8年）に子爵一柳末徳（ひとつやなぎ すえのり）の三女、満喜子と結婚し、その後、1941年（昭和16年）に日本国籍を取得し、一柳米来留と改名した。William Merrell Voriesは、1905年に英語教師として来日、その後滋賀県近江八幡を拠点として自給宣教師として多彩な活動を行い、特に建築家として彼の業績に対する評価は近年ますます高まっている。（関西学院大学図書館報『時計台』No.73 田淵結執筆、p.28、2003.9.1）

- 4) 『新約聖書』新共同訳、p.10～p.11、日本聖書協会、1988

- 5) 『失敗者の自叙伝』一柳米来留著、p.322～p.324、近江兄弟社・湖声社、1993.12.25

- 6) 『ヴォーリズ』浦谷道三著、p.50～p.59、近江兄弟社学園同窓会、1997.5.1

このカナダのトロント市でのテラー女史の講演が、以後のヴォーリズを日本へと赴かせた重大な出来事であった。後年、関西学院第4代院長となるベーツも、偶然この講演を聞いていたのである。浦谷道三著の『ヴォーリズ』の中でこの件にふれたところがあるので抜粋してみる。

それは日露戦争開始二年前の明治三十五年、一九〇二年一月のことであった。メレル・ヴォーリズは、カナダのトロントで開かれた学生義勇団の大会に名誉ある代議員として派遣された。単にコロラド大学からだけの代議員としてではなく、コロラド全州からのただ一人の代議員としての出席であった。（中略）ハワード・テラーという中国伝道に献身的な努力を続けてこられた婦人宣教師の特別講演を聞いた時のことであった。「みなさん、中国では今から二年前に義和団事件という恐ろしい事件が起きました。中国山東省における反キリスト教の暴動をきっかけに華北一帯に広がった反帝国主義の運動でした。日清戦争後、中国北方では列強諸国の利権争いがはげしくなり、中国人民は苦難の道を辿らねばならなくなりました。その上、水害やひでりに打ちひしがれた山東省の農民や手工業者などは「義和団」という拳法修業を名目に秘密結社をつくり、中国から一切の外国暴力を根絶しようとしたのです。そして教会堂を襲撃し、クリスチャンを迫害し虐殺したのです。しかし、この時多くの信徒が信仰をすてず、神への忠誠を貫くために、つぎつぎといさぎよく殉教の死をとげていきました。迫害する者のために祈りながら死んでいった信徒の姿は実に気高いものでした。」

5000人の聴衆は手に汗して聴いた。ハワード・テラー女史の声涙ともにくだる実話を水を打ったように静まりかえって聞く5000の魂の上に聖霊の働きが加わらない筈はなかった。特にヴォーリズの受けた印象とその感動は異常なほどに強く、神ご自身が語りかけておられるように感じた。そして、まんじりともせず講師の顔を見ている彼には、他の会衆の顔は全く見えず、あたり一面くらくらくなって、自分一人に語りかけておられるように思われた。その時、講師の顔は突然キリストのみ顔に変わった。そしてキリストご自身が壇上から深い愛のまなざしをもってメレル・ヴォーリズの心を射たように感じた。

「メレル・ヴォーリズ、お前自身は一体どうするつもりか？」メレルの聞いたこの声は、まさしく神の声であった。一瞬のできごとであったが、メレルの利己的な思いを根底からくつがえす神の声であった。メレルは心の中でこうささやいた。

「とるに足りない自分は全くひとりよがり、神の召命をさけながら、個人的な計画にのみ走り、キリストのみ前にざんげするほかない。このごう慢な態度を許していただくほかない。近視眼的なわがままを捨てて、神の永遠のご計画に参加すべきだ。今自分はクリスチャンという名を返上するか、キリストの弟子として絶対無条件で神のご計画に従うか、この二つに一つのどちらかを選ぶよりほかに道はないのだ。」

この体験がヴォーリズを、日本へ導く契機となったのである。関西学院大学への遙かな道へ続いていくのである。

- 7) 『失敗者の自叙伝』一柳米来留著、p.104～p.106、近江兄弟社・湖声社、1993.12.25

ヴォーリズは、明治38年（1905年）2月2日（木曜日）に、近江八幡にやって来たが、その日から日記をつけている。

二月八日にこう記している。「水曜日。放課後、宮本氏と私は買物に出かけ、本箱と旗竿とを買い、バイブル・クラスのために、教会から座布団を借りてきた。夜は何たる感謝、四十五名の学生がつどい、バイブル・クラスを催す。二十七名の者は英語新約聖書を希望した。「霊・知・体」のことで、および聖書が大切な書物であることについて語る。西山君が書記、西村君が会長、井上君が副会長になった。ふすまをはずせば、部屋が大きくなるから便利だ。散会后、宮本氏は居残り、二人で一緒にバイブル・クラスのために祈る。（生徒たちに、日本語の新約聖書を与えねばならぬと思った。のちには、この最初のクラスを上級生と下級生の二組に分けた。）」ヴォーリズをめぐる学生たちとの楽しい交流を知ることができよう。

- 8) 大同生命ビル 1925年（大正14年）、その後1993年（平成5年）に新しく造りなおされた。（設計は一粒社ヴォーリズ建築事務所と日建設計）
9) 関西学院大学 1929年（昭和4年）西宮市上ヶ原一番町にあり、スパニッシュ・ミッション・スタイルの校舎が美しい。
10) 神戸女学院 1933年（昭和8年）西宮市岡田山にある。ヴォーリズの妻、満喜子の母校。
11) 大丸百貨店心齋橋店 1922年～1933年（大正11年～昭和8年）大阪市中央区心齋橋筋
12) 神戸ユニオン教会 1929年（昭和4年）神戸市中央区生田町 ゴシック様式の教会。現在はフロインドリーブのお店として親しまれている。
13) 『失敗者の自叙伝』一柳米来留著、p.1～p.5、近江兄弟社・湖声社、1993.12.25

上記の本の序文は一柳満喜子が書いている。ヴォーリズが38才、満喜子が35才の時（1919年）、結婚して、その後、1964年（昭和39年）5月7日、ヴォーリズが生涯を終えるまで、ヴォーリズのかたわらに居て、ヴォーリズをささえた。序文に言う——そのはじめ、金も、言葉も、知人もなく、彼の持ち合わせのものは、ただ信仰一つでありました。「神が彼を近江にお導きになった」との一念でした。最初彼は、激しい寂しさ、孤独に襲われました。帰国の旅費をまかなう金が、彼のふところにあつたら逃げ去ったでしょう。

幸いといひましようか、摂理であったと信じてますが、金がなかったから、それができなかったという事は、神が彼をこの地に植えつけて、信仰の種をまかして給うたのであるという事実を、明らかにするものであります。

神は、昔、アブラハムに言われたように

「わたしは全能の神である。あなたは、わたしの前に歩み、全き者であれ」と、米来留にも示され、それを信じ、祈りつつ前進して、今日の近江兄弟社の基礎をなしたのであります。（中略）一九六八年五月

米来留昇天の月 妻 一柳満喜子 これを記す

上記の妻の文から、妻の夫への愛情の深さと信仰の純粹さとを知らされ、見事な夫妻であったことが伝わってくる。

『教会が見える風景W. M. ヴォーリズの足跡』荒川久治・編著、地域デザイン研究所、1995. 12. 20

- 14) 『昭和62年度日本建築学会近畿支部研究報告集』「W. M. ヴォーリズの研究その11、ミッションスクールの建築作品について Part 2」山形政昭執筆、p. 825～p. 828
- 15) 『ヴォーリズの「祈りのかたち」～関西学院創立者ウォルター・R・ランバス生誕150周年～』（カタログ）、関西学院大学、p. 25～p. 28、2004. 10. 8
- 16) 頌栄541 父、み子、みたまの おおみかみに、ときわにたえせず みさかえあれ。
- 17) 讚美歌312
- 18) 関西学院創立者ウォルター・R・ランバス生誕150周年ヴォーリズの「祈りのかたち」展カタログ、株式会社ヤマブラ編集、p. 7、関西学院大学（後援朝日新聞社・協賛株式会社竹中工務店、JR西日本・協力財団法人近江兄弟社ヴォーリズ記念館・株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所・大阪芸術大学博物館）、2004. 10. 8
- 19) 『関西学院百年史 通史編Ⅰ』関西学院百年史編纂事業委員会編集、p. 89、学校法人関西学院、1997. 5. 20
- 20) 『関西学院百年史 通史編Ⅰ』関西学院百年史編纂事業委員会編集、p. 294～p. 295、学校法人関西学院、1997. 5. 20
- 21) 『関西学院百年史 通史編Ⅰ』関西学院百年史編纂事業委員会編集、p. 301、学校法人関西学院、1997. 5. 20
- 22) 『関西学院百年史 通史編Ⅰ』関西学院百年史編纂事業委員会編集、p. 301～p. 302、学校法人関西学院、1997. 5. 20
- 23) 『関西学院百年史 通史編Ⅰ』関西学院百年史編纂事業委員会編集、p. 447～p. 448、学校法人関西学院、1997. 5. 20
- 24) 関西学院創立者ウォルター・R・ランバス生誕150周年ヴォーリズの「祈りのかたち」展カタログ、株式会社ヤマブラ編集、p. 25、関西学院大学、2004. 10. 8
- 25) 『関西学院百年史 通史編Ⅰ』関西学院百年史編纂事業委員会編集、p. 448～p. 450、学校法人関西学院、1997. 5. 20
 関西学院創立者ウォルター・R・ランバス生誕150周年ヴォーリズの「祈りのかたち」展カタログ、株式会社ヤマブラ編集、p. 25、関西学院大学、2004. 10. 8
- 26) 『昭和62年度日本建築学界近畿支部研究報告集』山形政昭執筆「W. M. ヴォーリズの研究 その11、ミッションスクールの建築作品について Part 2」、p. 825～p. 828、1987
 『関西学院史紀要創刊号』山形政昭執筆「関西学院キャンパスの建築〈上〉4. ヴォーリズによるミッション・スクールの建築（時代区分について／建築群にみる特色と様式）、p. 10～p. 54、関西学院百年史編集委員会編集、学校法人関西学院、1991. 6. 1
- 27) 『天界』（第744号第68巻）、佐藤利男執筆「建築家ヴォーリズとその作品“HOMAM”」、p. 138～p. 141、1987. 5. 15
- 28) さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。（マタイによる福音書27. 45-46）
- 29) 『ヴォーリズの西洋館～日本近代住宅の先駆』山形政昭著、淡交社、2002. 7. 15
- 30) 『写真集「日本人を越えたニホン人」ウィリアム・メレル・ヴォーリズ』株式会社山田プランニング編集、財団法人近江兄弟社・株式会社クラブハリエ・有限会社たねや制作、びわ湖放送株式会社出版、近江八幡市・ヴォーリズ委員会・株式会社近江兄弟社・株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所・ヴォーリズ記念館（一柳記念館）・滋賀県立八幡商業高等学校他の協力、1998. 2. 2

31) 『関西学院事典』 関西学院事典編集委員会編集、学校法人関西学院、2001.9.28

※本論文執筆にさいし、関西学院大学学院史編纂室事務長高橋正氏の助言、資料紹介・提供があった。また、ドキュメンタリスト中島理壽氏の資料協力があった。両者に深く感謝の意を表します。

『関西学院百年史通史編Ⅰ』、『関西学院百年史通史編Ⅱ』、『関西学院史紀要創刊号』、『関西学院史紀要第二号』、『関西学院の100年』を根底資料とした。尚、引用文は縦書きのものを、横書きにする場合、漢数字は算用数字として表記した箇所がある。本論文は研究や教育のためにまとめたものであり、それ以外の使用はいたしません。関係各位に厚く御礼申し上げます。最後に好きな一句を掲げます。

幸福なるかな、心の清き者。その人は神を見ん。

キーワード：ヴォーリス 関西学院大学 スペニッシュ・ミッション・スタイル

Keywords : Vories Kwansei Gakuin University Spanish mission style